

凡 例

- 一、本史料集は「茨城大学附属図書館郷土史料双書」の第一集として、「水戸下市御用留」全三九冊（年代順に並べ替えた）を九分冊に分けた第八分冊にあたる。本冊には「問屋御用留」一〜五を収載した。
- 二、漢字は、原則として常用漢字に改め、一部は当時の慣用に従った。また、適宜、読点・並列点を補った。
- 三、変体がなは、原則として平仮名に改めたが、助詞に用いられる「者」「而」「江」「之」「茂」「今」「哉」「而已」は原文のままとした。
- 四、虫損などにより判読困難な箇所は、□（一字）、「」（字数が推定できない場合）で示した。また、類推できるものは（）で（○○カ）とした。
- 五、原文のままでは疑問の箇所、あるいは誤字と思われるものは原則として、（マ、）を付けた。また、類推できるものは右わきに（）で記載した。訂正のため文字を消してある場合は、左わきにミミで示した（その文字に線を引く場合もある）。
- 六、記事が異なる毎に二行あけ、一連番号を漢数字で付けた。また、年月日の前後する箇所もあるが、原文の記載順に従った。
- 七、闕字・平出は原則として一字分あけた。